

取組の背景・趣旨

- ▶1972年『「成長の限界」—人類の危機レポート』(ローマクラブ)の衝撃から50年。当時、京都大学総長であった奥田東氏が、「東西文明の融合による新たな地球文明の創出」を唱え、その拠点として「関西文化学術研究都市(けいはんな学研都市)」の建設を構想したのは、その衝撃を受けてのことであった。
- ▶世界は、この危機にどう立ち向かったのか。「成長の限界」を超え、人類はかつてなく「繁栄」し、そして危機は突破されたかに見えた。だが、そこに出現したのは、圧倒的な格差社会。地球規模の巨大自然災害に次々と襲われる社会、気候危機に陥った世界だ。危機は一層深刻さを増した。
- ▶ところで、「けいはんな学研都市」には、近代のその先を照らし出す光がある。その光源は、2013年以来10年近くわたって開催されている「満月の夜開く哲学カフェ「ゲートの会」だ。また、その光を掲げて次代を拓こうとする若者たちの集いもある。卒塾生300名に及ぶ「IIAS塾ジュニアセミナー“独立自尊の志”養成プログラム」だ。
- ▶けいはんな学研都市は、次代を拓く「新たな文明」の萌芽探求の好適地である。その探求に向けて、「新たな文明」の萌芽、探求を！>プロジェクトを起こし、「meta鼎談(哲学×科学×技術)」を、また「市民懇談(roundtable)」を新たに開催することとしたい。
- ▶そして、『「新たな文明」の萌芽、探求を！』の合言葉の下に、市民と研究者と企業と行政との連携による協働態を、この「けいはんな学研都市」において形成していこうと思う。

「新たな文明」の萌芽、探求を!

市民参画のもと学学連携、産学連携、教学連携。
次代を拓く最前線の議論を、あなたと共に!

けいはんな学研都市の建設の起源

1972年 ローマクラブの報告書「成長の限界・・・人類の危機」
※1972年 国連人間環境会議(ストックホルム会議)「人間環境宣言」
「かけがえのない地球(Only One Earth)」

1978~1984年 関西学術研究都市調査懇談会



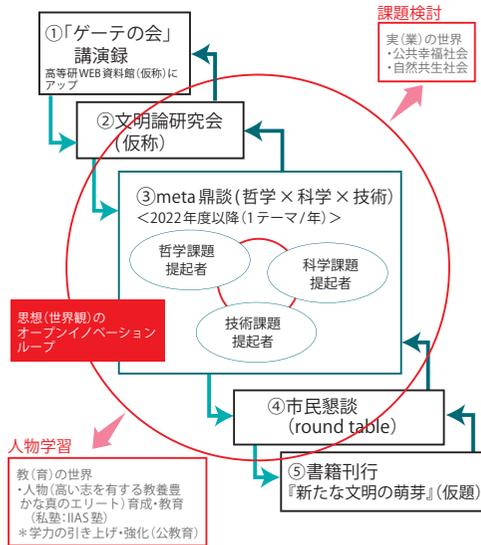
人類の幸福のために新しい地球文明の創造

1984年 (財)国際高等研究所 設立

1986年 (財)関西文化学術研究都市推進機構 設立

1987年 新文化首都の建設を国の法令を公布して施行着手

プロジェクトの骨格



近代合理主義を超えて、
その自然観、人間観、死生観を問い直す。
近代化の光と影を追い、未来を照射

2023年度テーマ 「文明論」

モチーフ 「日本文明」の固有性と普遍性
—「近代文明」の限界を超えて

日本は、中国文明とアメリカ文明との狭間であって、そのアイデンティティをどのように確立していくのかが問われている。日本文明の在り方を追求していくことは、これからの世界にとっても不可避のテーマである。本プロジェクトを通じて、次代を拓く「新たな世界観」を獲得する端緒が開かれることを願っている。

満月の夜開くけいはんな哲学カフェ「ゲートの会」
「新たな文明」の萌芽、探求を！」プロジェクト

産、官、学の連携のもと、研究成果を社会に問いかける。



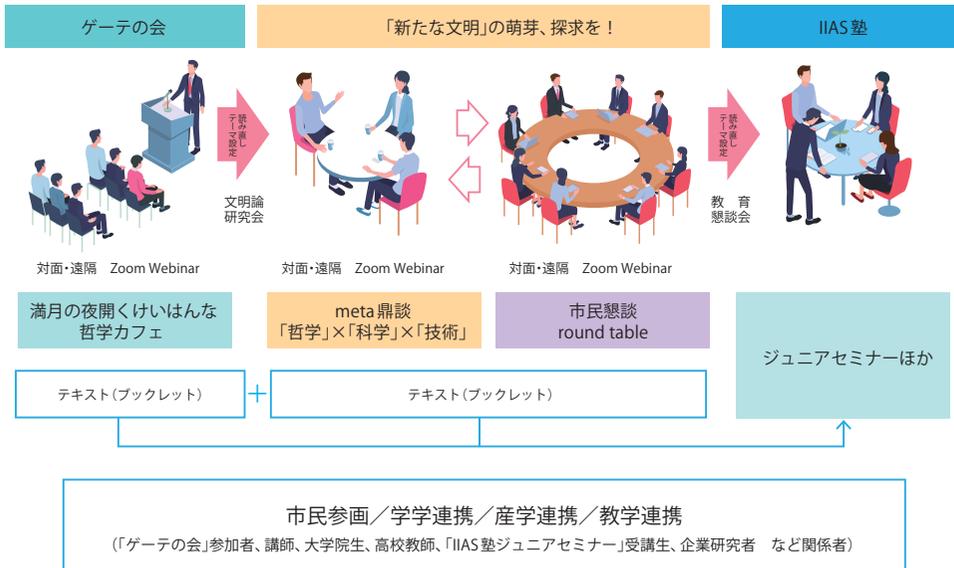
私たち人類は今、様々な要因で持続的生存が脅かされる諸課題に直面しています。将来の世代の私たちは、今まで通りの生き方、価値観で、この地球上に生存し続けられているでしょうか。国際高等研究所は、「人類の未来と幸福のために、何を研究すべきかを研究」することを基本理念に、地球社会が直面する困難にどのように対処するのか、そして21世紀にあるべき文化・科学・技術はどのような姿なのか、これらの諸課題に対する根源的な研究を行っています。



満月の夜開くけいはんな哲学カフェ「ゲートの会」 『「新たな文明」の萌芽、探求を！』プロジェクト イメージ

【共通テーマ】

近代合理主義を超えて、その自然観、人間観、死生観を問い直す。
近代化の光と影を追い、未来を照射する。



構成

- 満月の夜開くけいはんな哲学カフェ「ゲートの会」**
 2013年8月以来、「近代主義」の光と影を追い、基本的に毎月開催。2022年度末で91回開催。2021年度までの直近の基本テーマは「新しい文明の萌芽を探る」。2022年度以降、<「新たな文明」の萌芽、探求を！>プロジェクトに位置付けて開催
- けいはんな meta 鼎談(哲学×科学×技術)**
 「哲学」「科学」「技術」の異分野の学識者によるクロス討議(鼎談)。これに先立って開催される「ゲートの会」のテーマに関わる課題が、多角的に深く掘り下げられ、次代を拓く「新たな世界観」の誕生につながることを期待
- けいはんな市民懇談(round table)**
 「ゲートの会」及び「けいはんな meta 鼎談」の視聴者を中心に、当該主テーマについて、市民と専門家、教師、次代を担う学徒など多様な人々が学び合う場。市民が広くリテラシーを身に付ける切っ掛けとなり、地域文化力の向上に資することを期待
- IIAS 塾ジュニアセミナー「独立自尊の志」養成プログラム**
 2016年以来、18歳前後の高校生・大学生を対象に、次代を担う人物の輩出を旨として開講するリベラルアーツの学びの場。春季・夏季の年2回開催(各3日)。これまで近畿府県の高校生を中心に300名に及ぶ卒業生を輩出

満月の夜開くけいはんな哲学カフェ「ゲートの会」

ハイブリッド開催(オンライン・会場参加)

テーマ	開催時期	演題	講師(候補・敬称略)
「文明論」	5月12日(金) 18:00-20:00	岩倉使節団150年を機に「日本文明」の再興を考える	瀧井 一博 (国際日本文化研究センター教授)

開催主旨

けいはんな学研都市の建設の理念でもある“人類の未来”あるいは“明日の文明”の探求に向けて、けいはんな地域における知的連携土壌の醸成とともにその促進を図るため、2013年8月、「満月の夜開くけいはんな哲学カフェ「ゲートの会」」を立ち上げ、以来、毎月、原則として満月の夜に開催してきた。この間、2年ごとにテーマを変え、「近代化の光と影を追い、未来を照射する」を旨として議論を重ねてきた。
2022年度からは、これまでの開催スタイルを大きく変え、年度ごとにテーマを立て、テーマオリエンティッドの下に、人類の遺産の形成に貢献した人物などを「ゲートの会」での講演テーマに取り上げるとともに、新たに立ち上げる「meta 鼎談(哲学×科学×技術)」及び「市民懇談(roundtable)」につなげ、広く市民の参加を得て実践的議論を深め、けいはんな学研都市ならではの取組へと更に進化させる。



講師：瀧井 一博

「新たな文明」の萌芽、探求を！ けいはんな meta 鼎談(哲学×科学×技術)

ハイブリッド開催(オンライン・会場参加)

テーマ	開催時期	モチーフ	講師(候補・敬称略)
「文明論」	6月17日(土) 14:00-17:00	「日本文明」の固有性と普遍性—「近代文明」の限界を超えて	①哲学：末木 文美士(国際日本文化研究センター名誉教授) ②科学：三牧 聖子(同志社大学准教授) ③技術：斎藤 成也(国立遺伝学研究所名誉教授)

開催主旨

ニュートン・デカルト主義的世界観に基づく「近代文明」は、科学・技術文明として隆盛を極め、地球上に「工業社会」を築き上げた。それを基盤とする国民国家は、人類に比類のない「豊かさ」をもたらした。しかし、その反面、生存基盤としての自然が毀損し、地球環境システムが不全に陥っている。また「工業社会」から「情報社会」へと進展する人類社会は、「国民国家」の求心力の薄弱化により、そのアイデンティティの拠り所を失いつつあり、人類は生存の危機にある。
それに立ち向かうためには、豊かな自然観の獲得とともに、「民族」意識の基礎を置いた多様な歴史、文化、宗教などを核とする「新たな文明」と、その求心力の高まりが待望される。



哲学：末木 文美士



科学：三牧 聖子



技術：斎藤 成也

「新たな文明」の萌芽、探求を！ けいはんな市民懇談(round table)

懇談の様子をオンラインでご視聴いただけます。

テーマ	開催時期	モチーフ	討論参加者
「文明論」	7月15日(土) 14:00-17:00	「日本文明」の固有性と普遍性—「近代文明」の限界を超えて	「ゲートの会」参加者、講師、大学院生、高校教師、IIAS塾受講生、企業研究者 など関係者

開催主旨

「ゲートの会」の講演及び「けいはんな meta 鼎談」の内容を元に、市民と専門家、教師、次代を担う若き学徒など多様な人々が、当該主テーマについて学び合う場を設ける。その運営に当たっては、講演者その他の者がモデレーターを務め、主テーマを軸に、参加者相互に知識、疑問等を交換するとともに、問題意識を共有し、課題認識を深めることとする。なお、前記の講演及び鼎談の内容については、「ブックレット」として予め取りまとめ、参加者の自主学習に提供する。当該主テーマに関し、市民が広くリテラシーを身に付ける切っ掛けとなり、自発的な学びを継続する「市民学習サロン」への展開など、地域文化力の向上に資することを期待している。